

・2023年7月22日 2195回 「どうやってNY9.11テロを予知できたのか?臨場感で知る世界の動き」近藤節夫 会場:二葉総合学園本部

現場の空気・雰囲気を全身で感じる「臨場感」を知らずして、人生にメリハリを覚えたり、現場の空気感を知ることができようか。臨場感を知ってこそ現場の空気を知る「第6感」は研ぎ澄まされる。

若いころ海外武者修行を繰り返していた。その延長線上でNY9.11 テロ発生の前にアフガニスタンとパキスタンの国境カイバル峠を訪れた時、その手前のタリバンの巣窟に近い集落で、トラックから多くの銃砲類が積み下ろしされる現場を身体が凍り付くような緊張感と臨場感を覚えながら目撃してしまった。現場の空気感からそれらがテロ集団の手に渡ったら、一体どうなるだろうか?

一方、イスラエルを支持するアメリカは、アラブ諸国の反発を買って、1983年以降毎年のように世界各地で反米テロが頻発していた。この反米テロ連発を時系列的に捉えると、ひょっとして大きな反米テロがいま起きてても不思議ではないと感じた。

それから1年半後の2001年9月11日、予知したテロが現実にアメリカの最大都市ニューヨークで勃発したのだ。恐れていた反米テロは、NY9.11テロとなった。予知は現実となったのである。(報告:近藤節夫)

[参考写真] ①銃砲類が積み下ろしされた集落・ランディコータル

②国境カイバル峠からアフガニスタン方面を眺める。 ③NY9.11 テロ

